

妙乗寺便り 32号

発行責任者
妙乗寺住職
渡部 公元

砂を集めて仏塔と
せる 是の如き諸
人等 皆すでに仏
道を成じき

今回はお塔婆のお話です。

妙乗寺では、三回忌、七回忌などの法事、春秋のお彼岸、八月のお盆、年末法要の時に、皆さまからお申し込みを頂いたお塔婆を立てています。

では、どうしてお塔婆を立てるの・・・？

三〇〇〇年前、お釈迦様が亡くなられた時に、塔を立てて供養したのが、最初だと言われています。人々は、お釈迦様に対する供養する気持ちを込め、たくさん石を積み上げ、それが次第に塔の形になっ

ていきました。私たちがよく目にする、お寺に建てられている五重の塔は、まったく同じ意味をもっています。

お釈迦様は、お経の中で私たちに塔婆供養の大切さを説かれています。

『方便品第二』

ないし童子のたわむれに

子供が砂遊びをしている時、遊びで塔を作っただけでも大きな功德がある！その子供は塔を立てたご縁によって、やがて仏となることができる！！と、法華経の中で、このようにも説かれています。

つまり、お塔婆を立てることは、亡き人の供養だけでなく、生きている私達自身も功德を積むことが出来る、とても大事な行いなのです。

日蓮宗では、お題目「南無妙法蓮華経」と故人の法号やお名前を書きます。そして、施主（供養する人のお名前）を書きます。

つまり、故人へのお手紙と同じ事です。法号が手紙を届ける受取人、そして施主のお名前は、手紙の差出人です。

長い間会っていない友人から手紙を受け取れば、どんなにか嬉しく心躍る事でしょう。

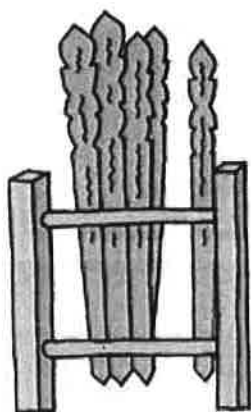
それと同じように、亡くなった方々も、私たちからの手紙を待つ

ています。わたしたちが幸せに毎日を送り、仲良く暮らしていることを塔婆供養をすることにより亡くなった方々にお知らせすること、あの世とこの世を結ぶ手紙の役割を果たしているのです。わたしたちが、この世で精一杯世のため人のために生きていくということを報告することが、亡くなった方々への何よりの供養になるのです。

最後に法要後、お墓に建てたお塔婆を下げる時期ですが、明確には決まっていません。

しかし新しい塔婆が上がらず、長い間、風雨にさらされ朽ちてきたり、埃をかぶってしまっているのを、よく目にします。せっかくのご先祖様・供養への供養、そしてご自分への功德も、無駄になってしまい、ご先祖様も、悲しい思いをされます。

お炊き上げをしますので、お寺までお持ちください。



忘れていませんか？

平成27年度護持会、墓地・納骨堂・位牌壇 管理費納入のお願い

年度末となりました。山納金の未入金の方はお彼岸回向の時、又は同封の振替用紙にて速やかな入金をお願いします。

※尚、過年度未入金の方には別紙おしらせのお手紙を同封しています。会計より